

■杉山龍丸 杉山茂丸の孫、夢野久作の子で、特攻隊隊長で部下大量死胸に、私財なげうち、インドのグリーンファーマーに。

すぎやまたつまる

ベトナム条約・1919＝ 福岡市で、杉山農園を営みながら(九州日報)の記者を務める杉山泰道(夢野久作)の長男に生まれる。

原敬首相暗殺1921＝ 2歳：弟鉄児が誕生。

父泰道は、政財界のフィクサーともいわれた玄洋社の大物杉山茂丸(其日庵)の子で、
円本時代始・1926＝ 7歳：弟泰緑が誕生。この年小説家夢野久作としてデビューする。

共産党事件・1928＝ 9歳：

小さいころから自然に親しみ、時には祖父の友人八幡製鉄の技術者と山々を歩きながら、石や草木の利用の仕方、自然の大きな仕組みを学び、

満州事変・・・1931＝12歳：

また、祖父の関係で、日本に亡命し、中村屋の相馬夫妻の娘と結婚して帰化したインド独立の志士ラス・ビハリ・ボースに会い、インドのことを教えられたという。

芥川直木賞始1935＝16歳：祖父が死去。政財界に大きな力を持っていないが、様々な活動に惜しげも無く金を使ってしまう人だったため残ったのは父の造った杉山農園だけであったが、

二二六事件・1936＝17歳：続いて父も死去したため、孤児になったような衝撃を受ける。農園の土地を売らずに一家を養うべく、

日中戦争始・1937＝18歳：福岡中学校を卒業すると、

総動員+健保 1938＝19歳：給料がもらえる陸軍士官学校入学。

在学中に祖父の知り合いの政治家(広田弘毅など)を訪ね歩く。アメリカとの戦争反対を訴え、憲兵隊に捕われ、東条英機首相の暗殺も考えていたと伝えられる。

大政翼賛会・1940＝21歳：陸軍士官学校(53期)を卒業、陸軍航空技術学校への入学を命じられ、

日米開戦・・・1941＝22歳：

創価学会検挙1943＝24歳：卒業すると、飛行第三十一戦隊整備隊長、隼集成整備隊長として、満州や東南アジアの戦闘に参加。

敗戦・・・・・・1945＝26歳：特攻隊のフィリピン基地の整備隊長を務め、ボルネオで腹部貫通銃創の重傷を負い、サイゴン南方総司令部から立川整備師団に転任の途中、陸軍少佐で終戦を迎える。戦中の重傷のため、医者から三年しか生きられないと言われるなか、戦死した部下たちの叫びが心の全てを占める。

新憲法公布・1946＝27歳：

新憲法施行・1947＝28歳：

この年、インドが独立、ガンジーとともに戦ってきたネルーが初代首相になる。杉山農園に帰って、心身を癒して回復すると、部下の仏壇に手を合わせるべく、遺族を訪ねる旅に出るが、罵声をあびせ続けられる辛いものになる。その後、外地からの引揚者を杉山農園に収容するかたわら、千葉県稲毛の引揚援護局(復員局)に勤務、元兵士の死亡記録を留守家族に伝える仕事にあたる。この間、10年かけて、戦時の航空隊の仲間たちのことを書きつづっていたというが、まとまった「幻の戦闘機隊」の原稿を生き残った戦友影山に渡していたらしい。

独立回復・・・1951＝32歳：

上京し、秋葉原でプラスチック製品の販売をはじめ。ある日、僧侶姿をした陸軍士官学校の同級生佐藤幸雄に出会い、彼から、藤井日達上人に弟子入りしてインド救済運動をしていると、資金提供を求められ、やむなく応じると、

55年体制始・1955＝36歳：

波多江光子と結婚。
インドに戻った佐藤の吹聴から、ガンジーの直弟子が訪れるようになり、心をこめてインド人青年らの教育活動するうち、感銘したインドのネルー首相が産業技術の指導支援依頼の特使を送ってきたことから、内外の学者らの協力を得て、インド救援の寄付金を募る国際文化福祉協会を設立。自らも、東京での商売をやめ、福岡でプラスチックの博多人形作りで稼ごうとするが、地元形師の反対にあって挫折。杉山農園の土地を切り売りしながら、インド人青年らの教育活動を続ける。

美智子妃・・・1959＝40歳：

安保闘争・・・1960＝41歳：

タイタイ病始・1961＝42歳：

この頃、インド行きを希望するが、ボースを匿った杉山茂丸の孫だったため、警察・公安から調査され、
*マハラシュトラ州ベドチイ村でのガンジーの弟子たちの大会に招かれ、初めてインドに渡り、ネルー首相から大歓迎され、藤井日達上人とともに、ガンジー塾となっている生家跡も訪問、感銘を受け、以後、インドに没入して行く。引き続き、インドの聖人ヴィノバと約一ヶ月の旅し、砂漠となったパンジャブ州を見て、ピラト総督に、植林して水源を確保すべきことを提案、理解した総督は直ちに、国際道路にユーカリを植える事業に乗り出し、その指導を委ねられ、苗木づくりを開始。

全国総合計画1962＝43歳：

東京リビック 1964＝45歳：

この年、鶴見俊輔が「思想の科学」で夢野久作のことを紹介してくれたのに感動し、交流が始まる。
*育った苗木で植林を始めると共に、早魃に襲われ、3年間で500万人が餓死する事態に、インド政府も事業中止に至る。ついに、杉山農園を売却して資金を調達し、家族を日本に残して渡印。以後、家族は借家住まいとなり、国連関係の環境会議出席には友人から借金する事態に。

大学紛争始・1965＝46歳：

いざなぎ景気1966＝47歳：

ベトナムに平和を!運動(後のベ平連)に、玄洋社国際部長として呼びかけ人となっている。
インドで餓死者の状況を調査し国連に直訴するが相手にされず、孫文生誕百年祭に蒋介石総統から国賓として台湾に招かれたことから、祖父茂丸が台湾で関与した蓬莱米のことを思い起こし、インドの窮状を訴え、台湾と同じ緯度にあるパンジャブ州に台湾の種籾を分けてくれるように懇願。孫文のことを持ちだしたため、六年間の台湾国外追放となるが、

美濃部都知事1967＝48歳：

鶴見俊輔の「声なき声のたより」に、敗戦直後に留守家族を廻った時の「ふたつの悲しみ」を寄稿、感動を誘う。
*国連食糧農業機関(FAO)を通じて、台湾政府からインドに蓬莱米の種籾が贈られ、

霞ヶ関ビル・1968＝49歳：

移植に成功。
この間も、ユーカリの植樹を地道に続け、砂漠地帯に生え、葉も花も実も食用になり生長が早いモリンガの木を発見。ネパールの南からパキスタンまで広がるシュワリック・レンジ(丘陵)の崩落を食い止めるためにサダバルと組み合わせで緑化に着手。

日中国交回復1972＝53歳：

石油ショック1973＝54歳：

角栄金脈辞任1974＝55歳：

初めて、インドで緑化の仕事を公表したが、
*ランドサットの写真から、ユーカリの植樹が砂漠を緑の地に変えたことも証明され、
終始、日本政府からの援助は無く、学界からは黙殺され、国際文化福祉協会の財団法人化も認められず、
インドの新聞に「三万本の木を植えた日本人」として紹介されるも、

革新大敗北・1979＝60歳：

貿易摩擦問題1980＝61歳：

中曽根内閣・1982＝63歳：

・・・・・・1984＝65歳：

*杉山農園の最後の土地と自宅千坪を売却。
*インドでの取組みをまとめた「砂漠の緑化に挑む」を著す。父の熱意に共鳴した人がお金をを出してくれ、第二回国際砂漠会議(オーストラリア、アデレード大学)に日本から唯一人出席、インドでの事業を報告、砂漠化の問題と緑化によるその克服を提唱したが、帰国後、脳溢血で倒れ、以後、植物人間状態となり、

バブル始・・・1986＝67歳：

竹下内閣・・・1987＝68歳：

士官学校同期で、戦時に脱出させてくれた輸送機の機長影山の来院に声を発したのが最初で最後となり、
没した。
影山の来訪時、彼から「幻の戦闘機隊」の原稿が子満丸に渡され、30年後、満丸が「グリーンファーマーの青春譜～ファントムと呼ばれた士たち」として出版する。